

3 御嵩町における地域公共交通の課題

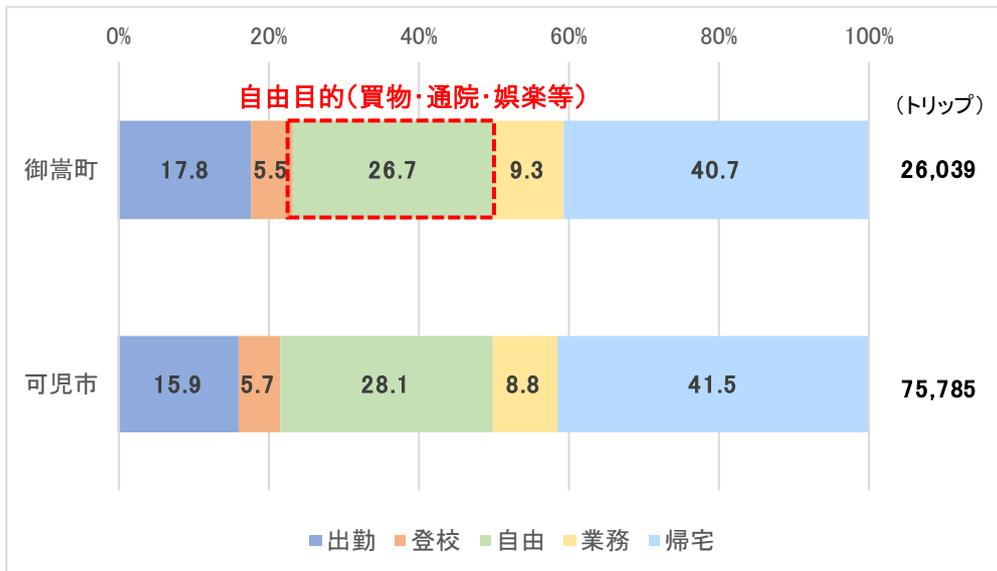
(1) 各種調査結果からみた課題の抽出

御嵩町の概況や各種ニーズ調査結果からみられる傾向や動向を抽出するとともに、そこから導かれる地域公共交通の課題（集約課題）を整理します。

調査分類	御嵩町の概況や各種ニーズ調査結果からみられる傾向や動向	課題との対応
御嵩町の概況	・御嵩町の人口は、平成7年をピークに減少しており、2040年には15,000人を下回る中、65歳以上人口は割合、実数共に増加傾向	①
	・名鉄広見線、ふれあいバス、ふれあい予約バスによる御嵩町人口カバー率は約89%（鉄道駅から800m、バス停、乗降場から半径300mの利用圏域）（図3-11）	①
	・主要集客施設は公共交通利用圏域に概ね内包されている（図3-11）	①
	・通勤・通学流動は可児市、八百津町との結びつきが強い（図3-9）	③
	・町民の移動目的は、自由目的（買物、通院、習い事、食事など）の割合が増加し、代表交通手段は自動車の利用割合が増加（図3-1）	①
上位・関連計画	・御嵩町第五次総合計画では公共交通に対する基本計画として、ふれあいバス・ふれあい予約バスの利用者数29,000人を目標としている	②
	・御嵩町都市計画マスタープランでは、御嵩駅周辺は歴史文化交流拠点と位置付けられ、駅周辺の整備や公共交通の利便性向上を方針としている（図3-5）	②
	・名鉄広見線活性化計画では、地域内外の利用促進、地域にとって必要な社会インフラである認識を高めることを目標としている	②④
	・名鉄広見線とバス交通の連携向上による広域交通網形成に関する基礎調査では、新トンネルの開通を踏まえて、日常生活と観光交流の視点で広域バス路線構成案が検討されている	③
	・可児市の地域公共交通網形成計画では、御嵩町に連絡する名鉄広見線が公共交通軸として位置づけられている	③
	・八百津町の地域公共交通網形成計画では、御嵩町を連絡するYAOバスが、八百津町交流拠点と明智駅を結ぶ広域公共交通路線として位置づけられている	③
公共交通の現状	・福祉分野の計画として、高齢者の買物需要に対応したサービスが実施されている	②③
	・公共交通の利用者数（平成29年度）は、名鉄広見線で約895,000人、ふれあいバスで約15,000人、ふれあい予約バスで約8,500人となっており、推移は横ばい傾向（図3-8）	③
	・ふれあい予約バスの乗合率は、運行開始から2.0（人／台）以上を維持しており、令和元年9月時点では2.3（人／台）となっている	③
町民アンケート	・運行経費は年々増加傾向にあり、平成29年度経費は、ふれあいバス約1700万円、ふれあい予約バス約920万円	③
	・自家用車の利用頻度は、67.5%の方が「ほぼ毎日」と回答しており、週に一回以上の利用者が88.9%を占める	④
	・80歳以上になっても67.5%が運転の意向をもつ。運転免許証を返納した後の移動手段については、「家族・知人などによる送迎」が最も多く43.5%、「名鉄広見線」39.0%、「ふれあい予約バス」37.7%、「ふれあいバス」36.7%（図3-12）	①
	・普段の外出の目的地について「買物」「パート・アルバイト」目的では御嵩町内が約半数を占めるが、「飲食・娯楽」「観光・レクリエーション」「習い事・趣味」目的では可児市が町内を大幅に上回る（図3-2）	②③
	・公共交通に関する認知度について「町内を名鉄広見線が走っていること」の認知度は94.6%、「町内をふれあいバスが走っていること」は83.9%、「町内をふれあい予約バスが走っていること」は59.4%である。「自宅近くを走るバスで行くことのできる施設」は12.8%に留まる（図3-10）	④
	・公共交通全体の満足度は、満足（満足＋やや満足）15.6%＜不満（やや不満＋不満）22.8%	①④
	・名鉄広見線を「年に数日程度」以上利用する人は49.4%で、満足度は、満足（満足＋やや満足）47.8%＞不満（やや不満＋不満）20.3%。非利用者の今後の利用条件は「自宅などから駅までの移動手段がある」が高い（図3-13）	①
	・ふれあいバスを「年に数日程度」以上利用する人は4.1%で、満足度は、満足（満足＋やや満足）40.0%＞不満（やや不満＋不満）16.0%。非利用者の今後の利用条件は「利用したい時間帯に運行している」が最も高く、次いで「運行本数が多い」「自宅からバス停が近い」（図3-13）	①
・ふれあい予約バスを「年に数日程度」以上利用する人は3.7%で、満足度は、満足（満足＋やや満足）45.4%＞不満（やや不満＋不満）0%。非利用者の今後の利用条件は「利用したい時間帯に運行している」「予約が簡単」「運行本数が多い」が高い（図3-13）	①	

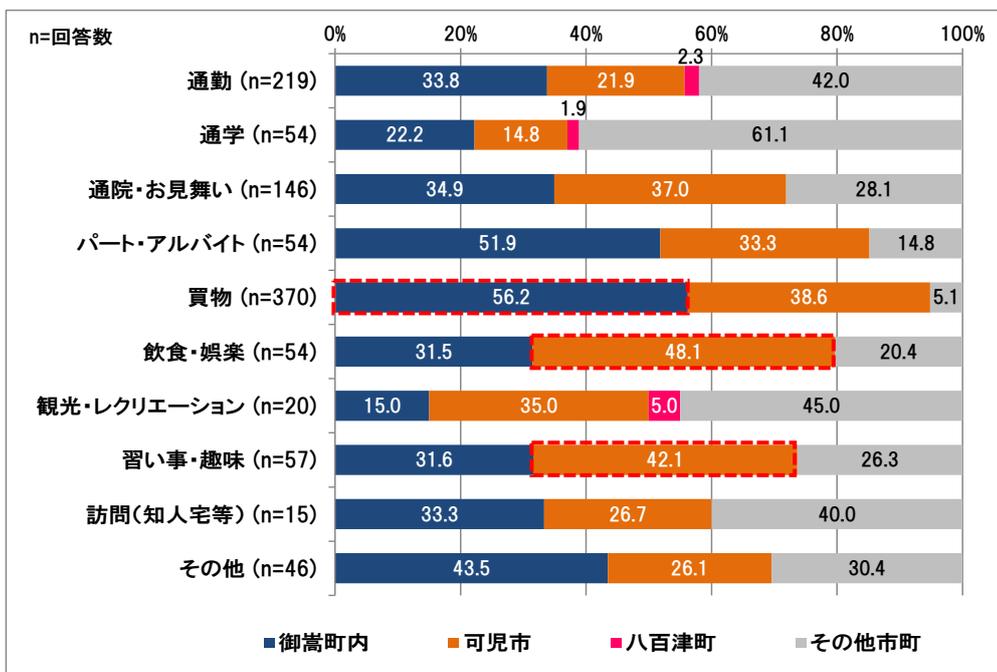
調査分類	御高町の概況や各種ニーズ調査結果からみられる傾向や動向	課題との対応
町民アンケート	・名鉄広見線に期待する役割について、1位「通勤・通学するための交通手段」2位「他の鉄道駅や広見線の駅へ行くための交通手段」3位「自動車などを利用できない方や、利用できなくなった場合の交通手段」	④
	・ふれあいバスに期待する役割について、1位「通院・買い物するための交通手段」2位「自動車などを利用できない方や、利用できなくなった場合の交通手段」3位「通勤・通学するための交通手段」	④
	・タクシーに期待する役割について、1位「自動車などを利用できない方や、利用できなくなった場合の交通手段」2位「通院・買い物するための交通手段」3位「普段は公共交通を利用していないが、いつでも利用できる安心感を与える役割」	④
	・公共交通の町支出額や運賃について、「高齢者などの交通弱者の移動手段確保のためなら、今と同程度の町支出額でよい」という意見が27.3%ある一方で、「利用者を増やすことで収入を増やし、町支出額を減らすべき」が25.0%ある	③
	・ふれあいバスの運賃は100円（現在）以下が36.6%、101円以上が63.4%。ふれあい予約バスの運賃は、200円（現在）以下が49.2%、201円以上が50.8%。どちらも現状より多く支払ってもよいという回答が現状以下を大幅に上回る	③
	・公共交通を確保・維持するため協働・連携して取り組める内容について、「公共交通を積極的に利用する」19.2%、「地域で公共交通を活用したイベントを実施する」「地域企業の協賛金（募金など）を募り、収入を増やす」も多い（図3-14）	③
利用者アンケート	・往復利用をしない理由は、「車で送迎してもらえらるから」41.7%、「利用したい時間と合わないから」33.3%。	①④
	・バスの現状の総合的な満足度は、満足（満足＋やや満足）78.1%＞不満（やや不満＋不満）21.9%。「運賃」「乗り心地」は満足度が高いが、一方で「乗り継ぎの待ち時間」「運行本数」「手持ちの路線図や時刻表の見やすさ」は不満度が高い。これからの重要度は、「バス停から目的地までの距離」「乗り心地」「運転手の対応」が高い	①④
	・重要度が高く満足度が低い項目は、「運行本数」「ダイヤ」「運行時間帯」「手持ちの路線図や時刻表の見やすさ」「予約バスの予約方法」「予約バスの予約締め切り時間」（図3-15）	④
	・公共交通の町支出額や運賃について、利用者は「公共交通をより便利にするために、町支出額を増やしてもよい」「高齢者などの交通弱者の移動手段確保のためなら、今と同程度の町支出額でよい」がともに19.0%で最も多く、次いで「利用者を増やすことで収入を増やし、町支出額を減らすべき」が16.7%	③
	・ふれあいバスの運賃は100円（現在）が52.0%、101円以上が48.0%。ふれあい予約バスの運賃は、200円（現在）以下が60.0%、201円以上が40.0%	③
	・公共交通を確保・維持するため協働・連携して取り組める内容について、「公共交通を積極的に利用する」33.3%、「地域で公共交通について話し合う場や組織を設置する」11.9%（図3-14）	③
乗降調査	・ふれあいバスみたけ・なか線：利用者は70歳代以上が66.7%を占める。利用目的は「通院・お見舞い」「観光・レクリエーション」がともに31.0%、利用頻度は「月に数日程度」が最も多く60.0%。乗り継ぎを伴わない利用が51.7%で、最終目的地は89.7%が御高町内である（図3-4,3-6,3-7）	①②
	・ふれあいバス工業団地・南山台線：利用者は60歳未満が84.6%を占める。「通勤」を目的とした移動が76.9%、次いで「通学」12.8%。利用頻度は「ほぼ毎日」が73.7%で、名鉄広見線への乗り換え利用が55.3%、最終目的地は57.9%が町内である（図3-4,3-6,3-7）	①②
	・ふれあい予約バスふしみ線：利用者は70歳代以上が56.5%を占める。利用目的は「買い物」30.5%、「通院・お見舞い」21.7%、利用頻度は「週に数日程度」が最も多く50.0%。乗り継ぎを伴わない利用が47.8%で、最終目的地は89.7%が御高町内である	②
	・ふれあい予約バスかみのごう線：利用者は70歳代以上が67.8%を占める。利用目的は「通院・お見舞い」34.1%「買い物」28.2%、利用頻度は「週に数日程度」が最も多く48.2%。乗り継ぎを伴わない利用、予約バスへの乗り継ぎがともに39.1%で、最終目的地は93.1%が御高町内である	②

図 3-1 全手段目的別トリップ構成



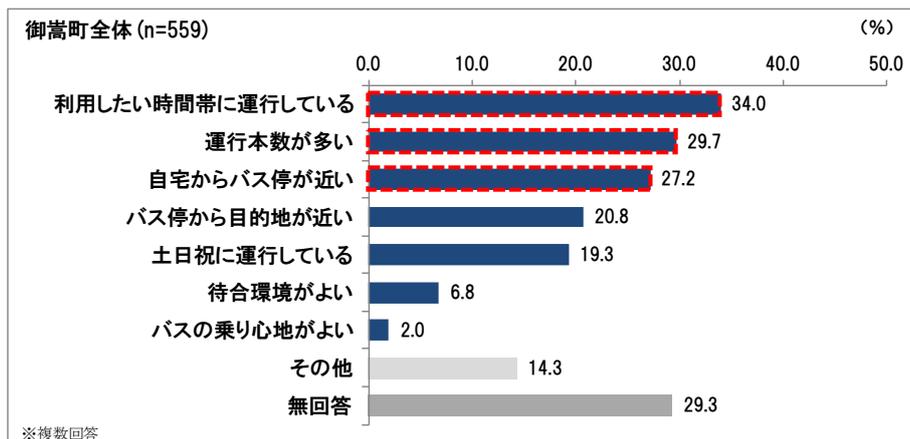
資料：第5回中京都市圏パーソントリップ調査

図 3-2 日頃の外出の目的地



資料：町民アンケート調査

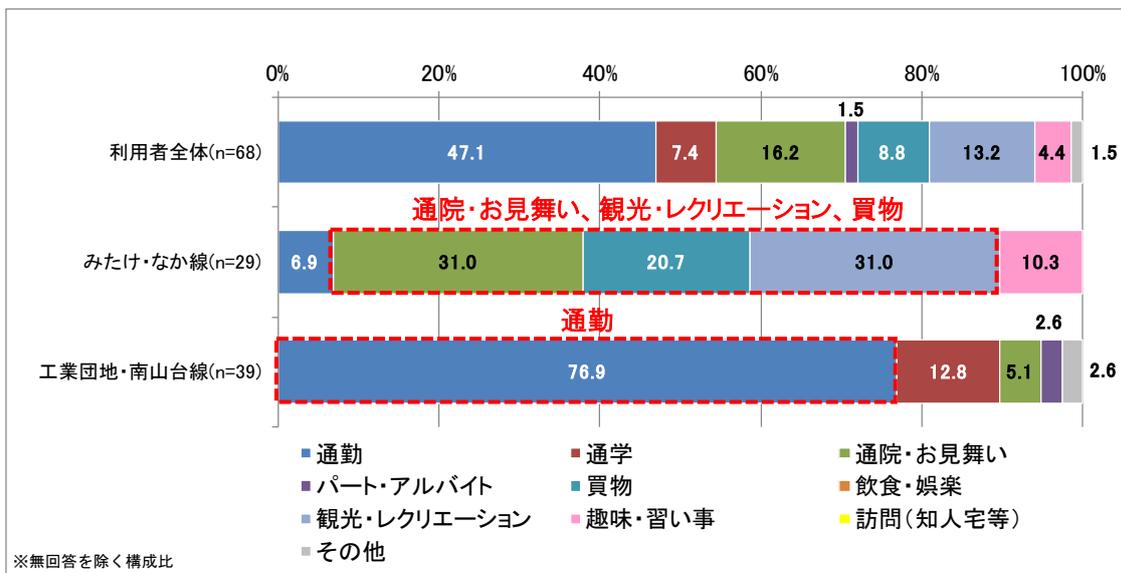
図 3-3 ふれあいバスを今後利用するための条件（未利用者）



※複数回答

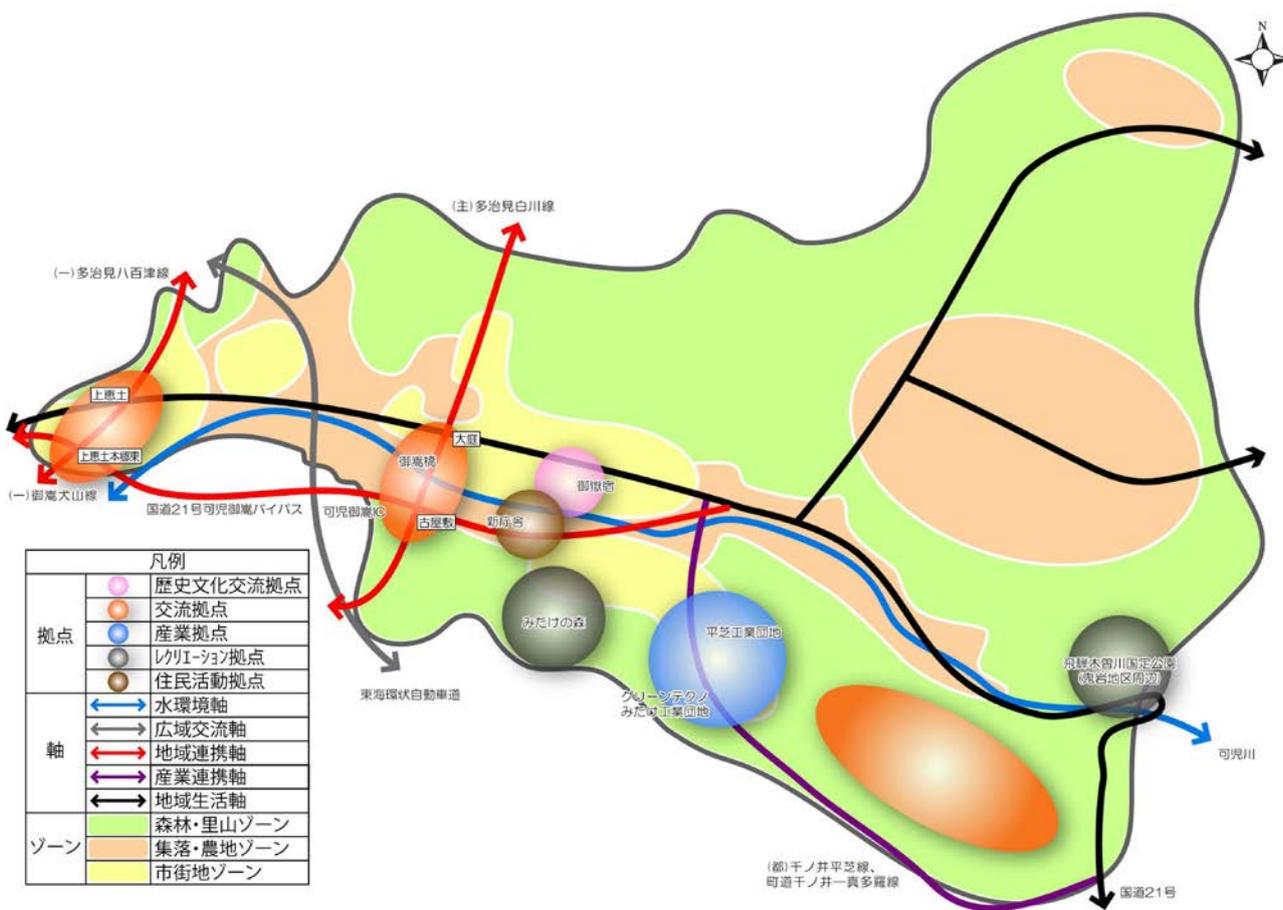
資料：町民アンケート調査

図 3-4 ふれあいバスの利用目的



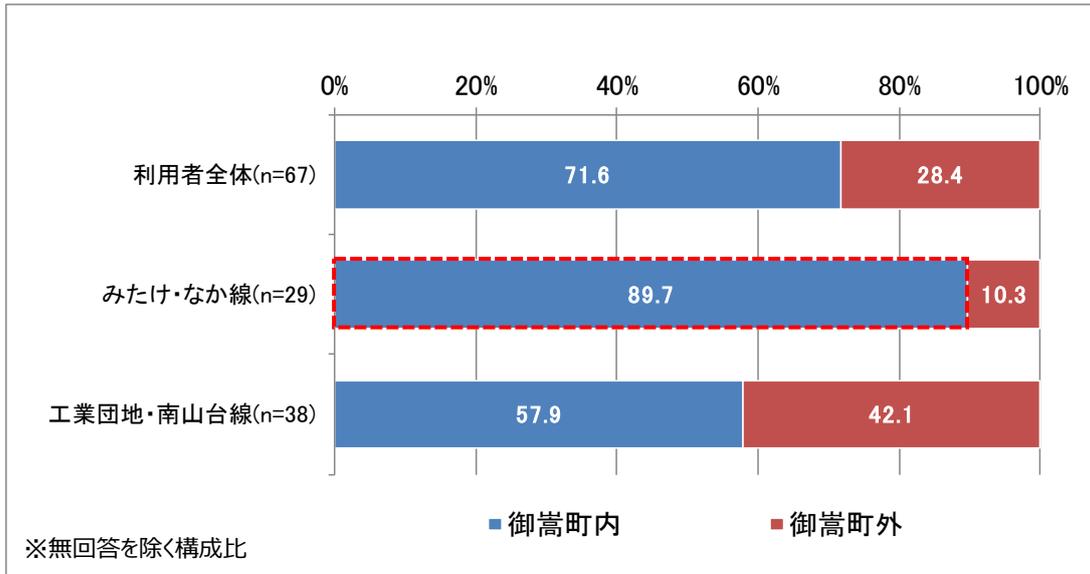
資料：乗降調査

図 3-5 将来都市構造図



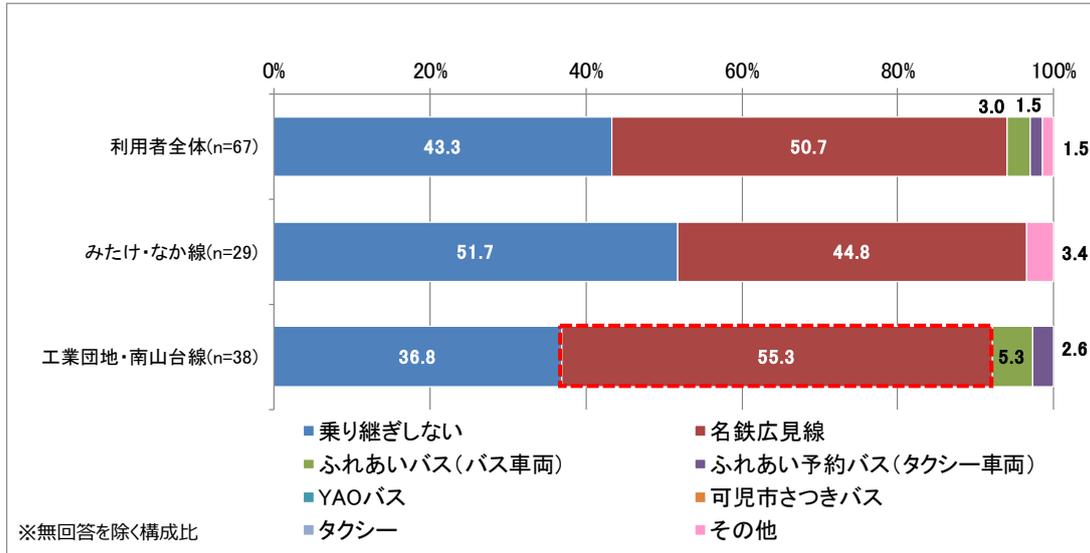
出典：御嵩町都市計画マスタープラン

図 3-6 ふれあいバスの最終目的地



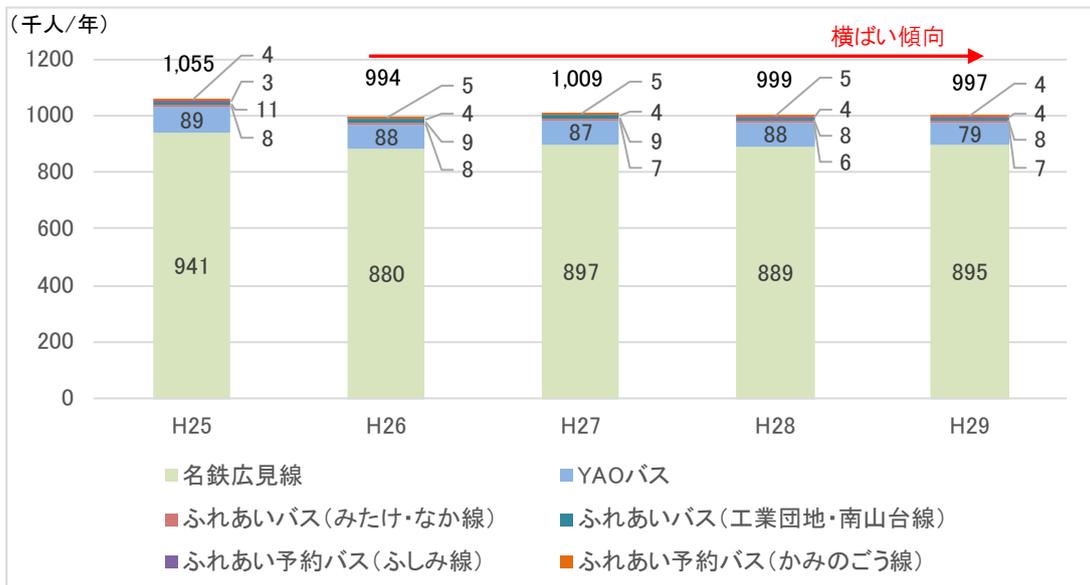
資料：乗降調査

図 3-7 他路線との乗り継ぎ



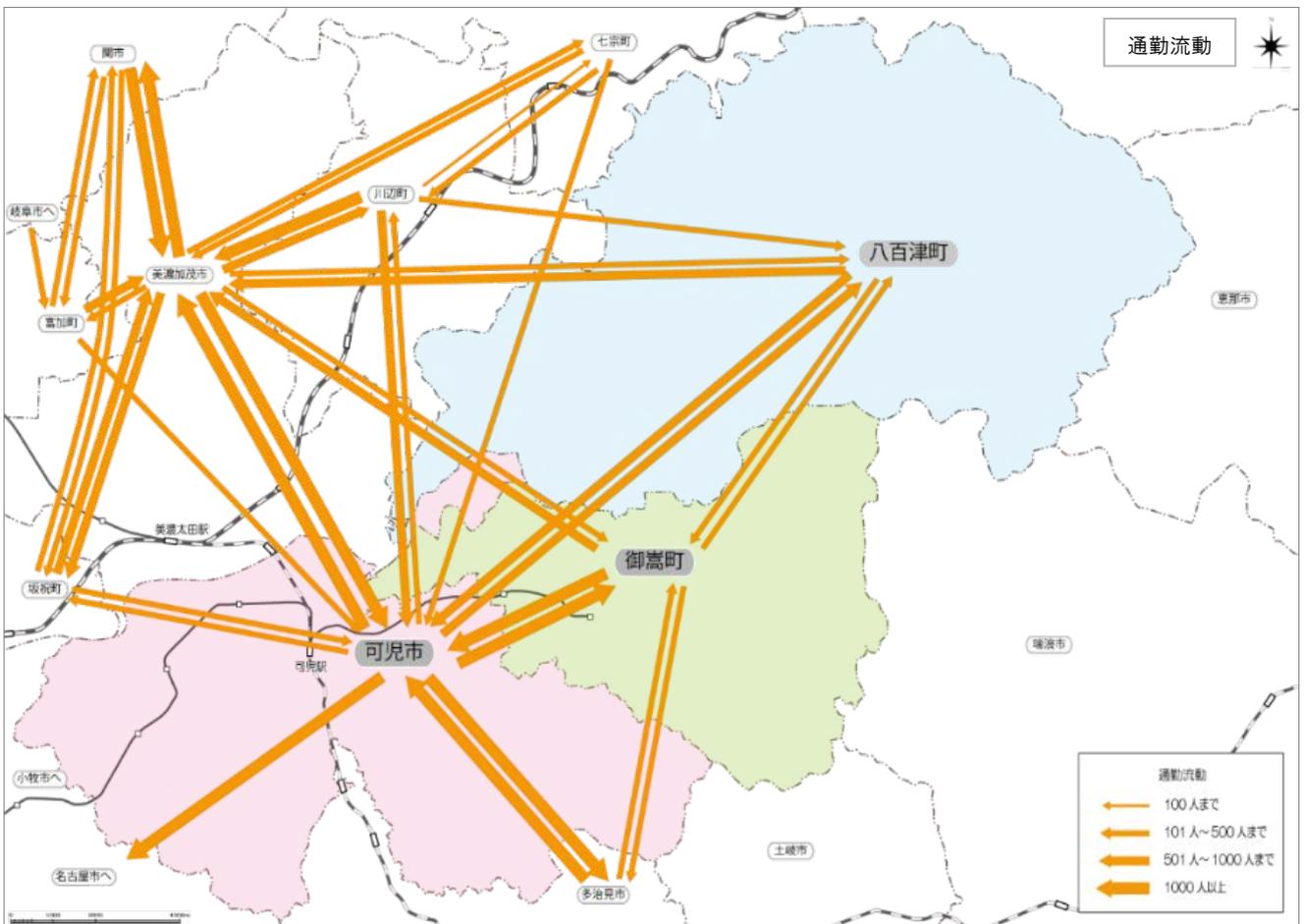
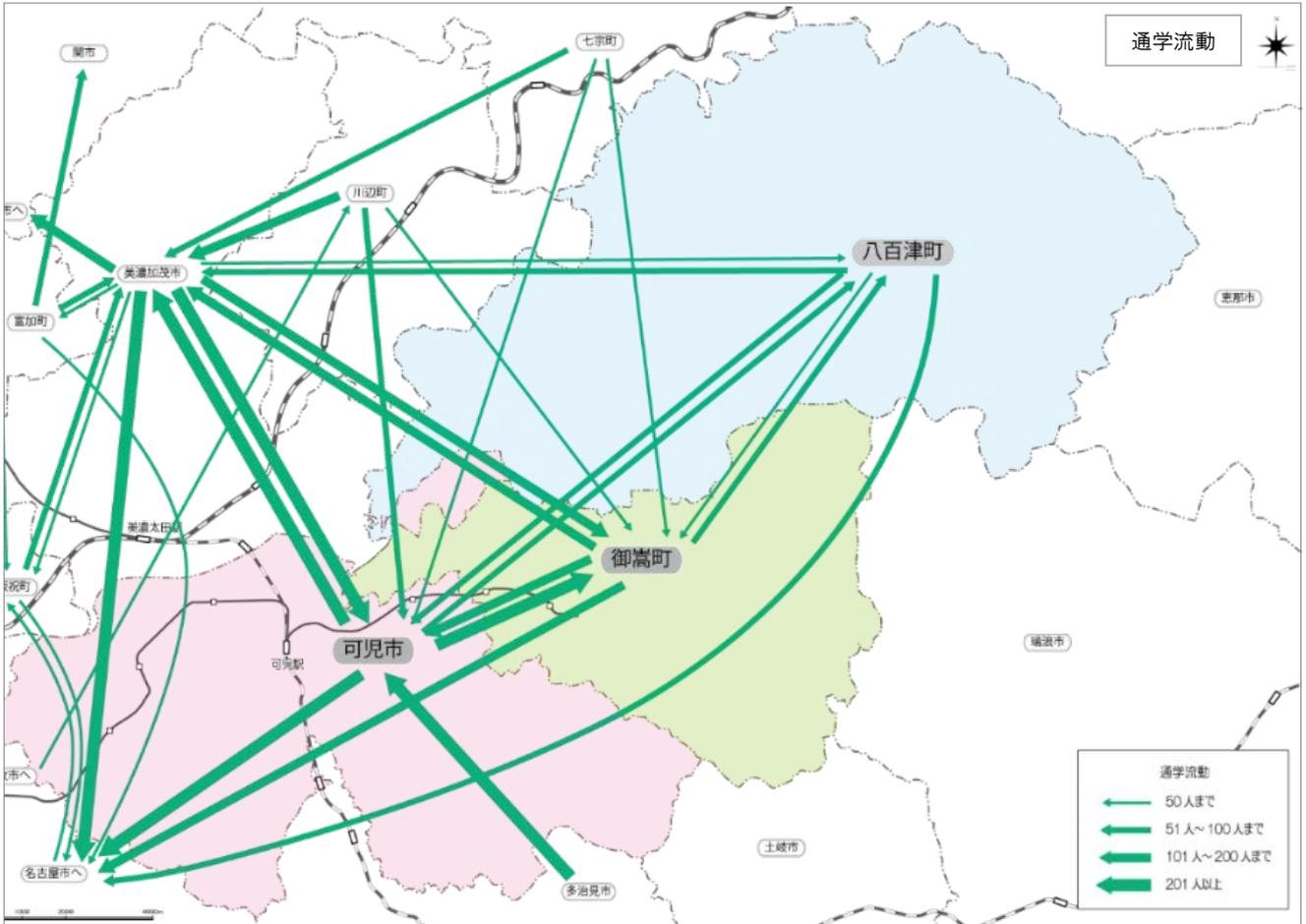
資料：乗降調査

図 3-8 路線別利用者数の推移



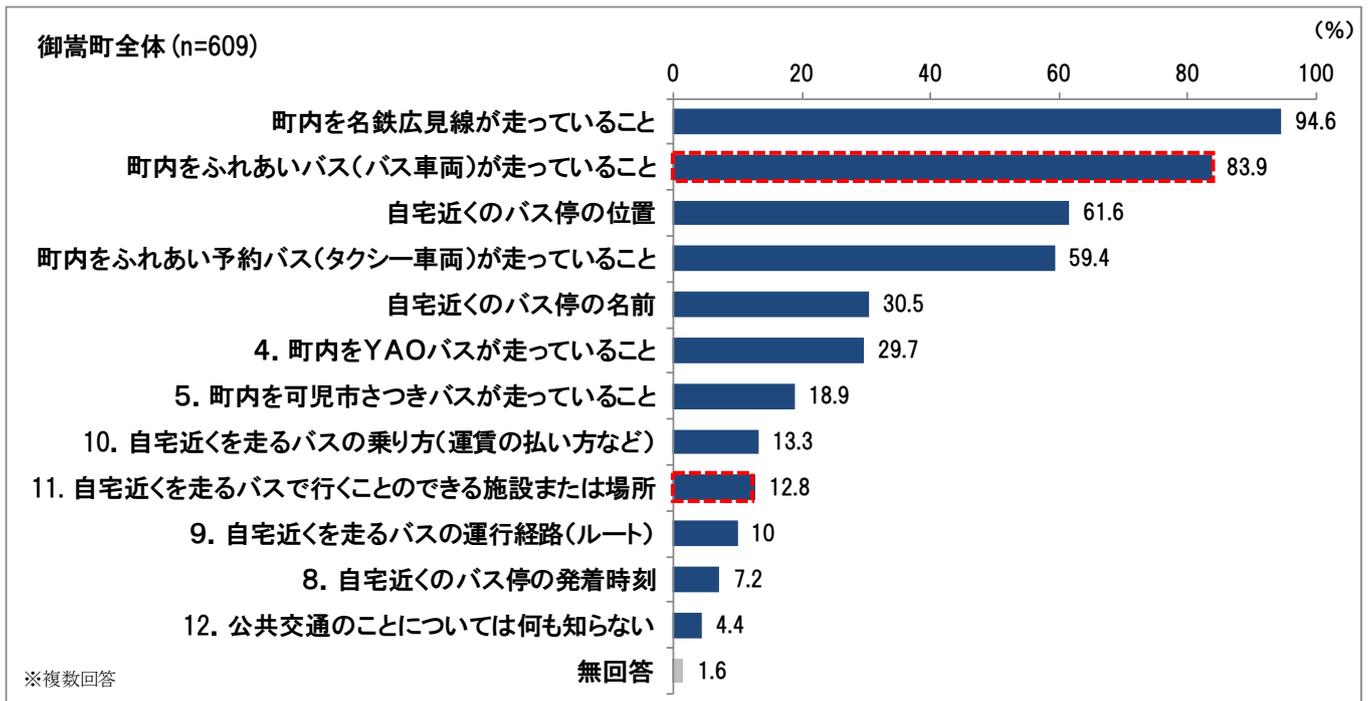
資料：御嵩町

图 3-9 通勤・通学流動



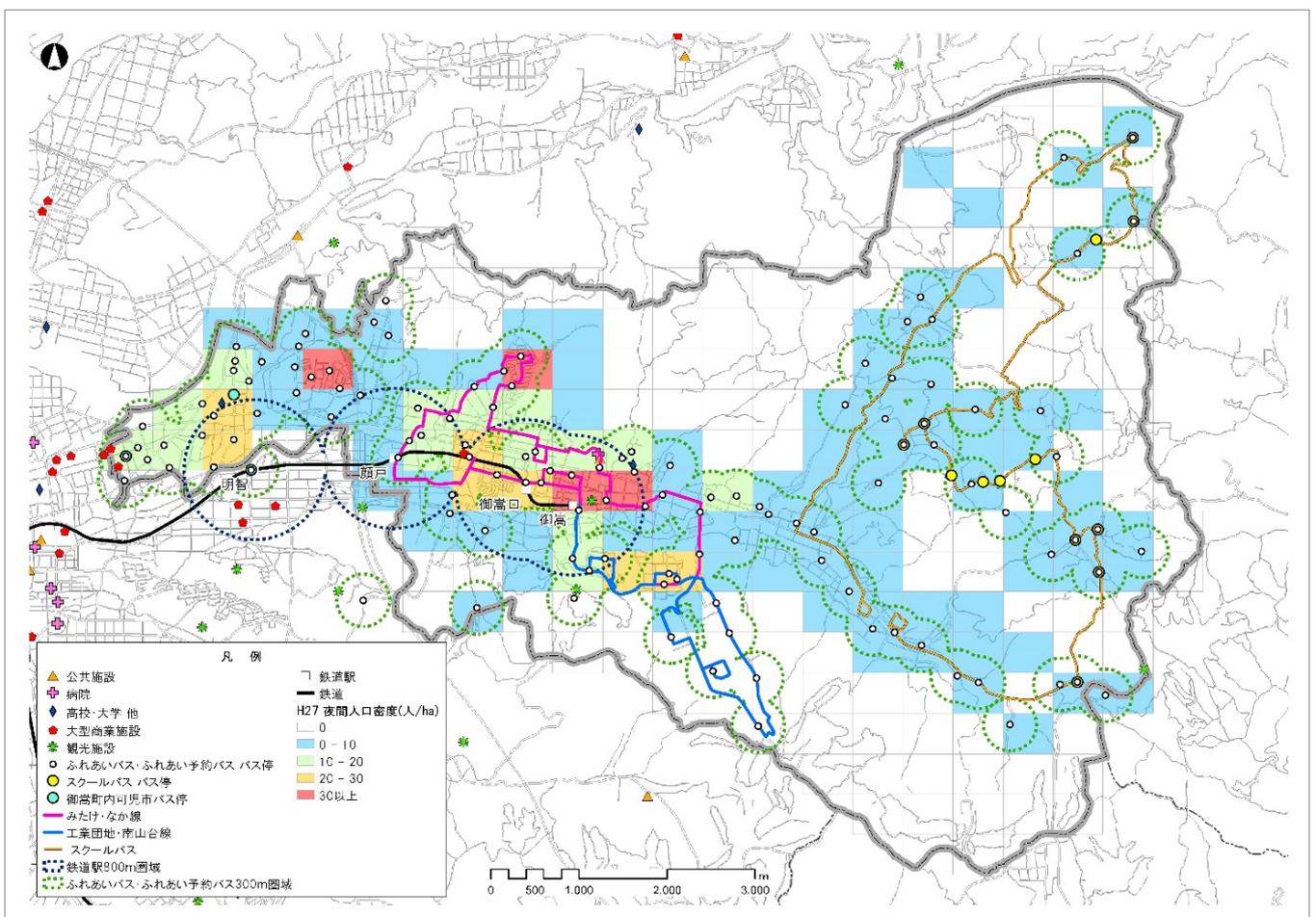
資料：H27 国勢調査

図 3-10 御嵩町の公共交通について知っていること



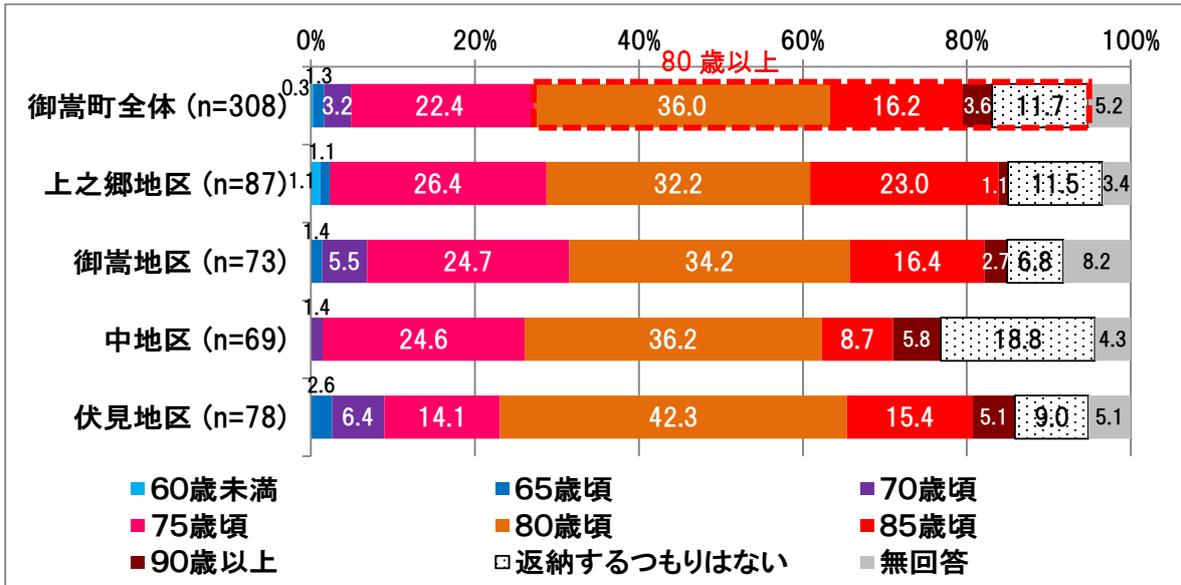
資料：町民アンケート調査

図3-11 ふれあいバス・ふれあい予約バスの人口カバー率



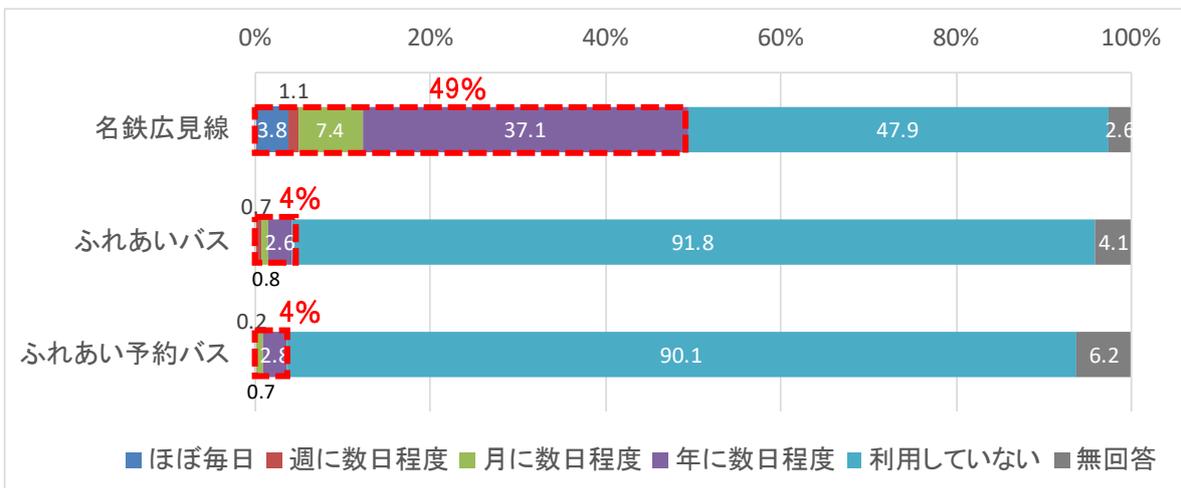
資料：国勢調査、国土数値情報、全国大型小売店舗総覧

図 3-12 免許返納しようと思う（返納した）年齢



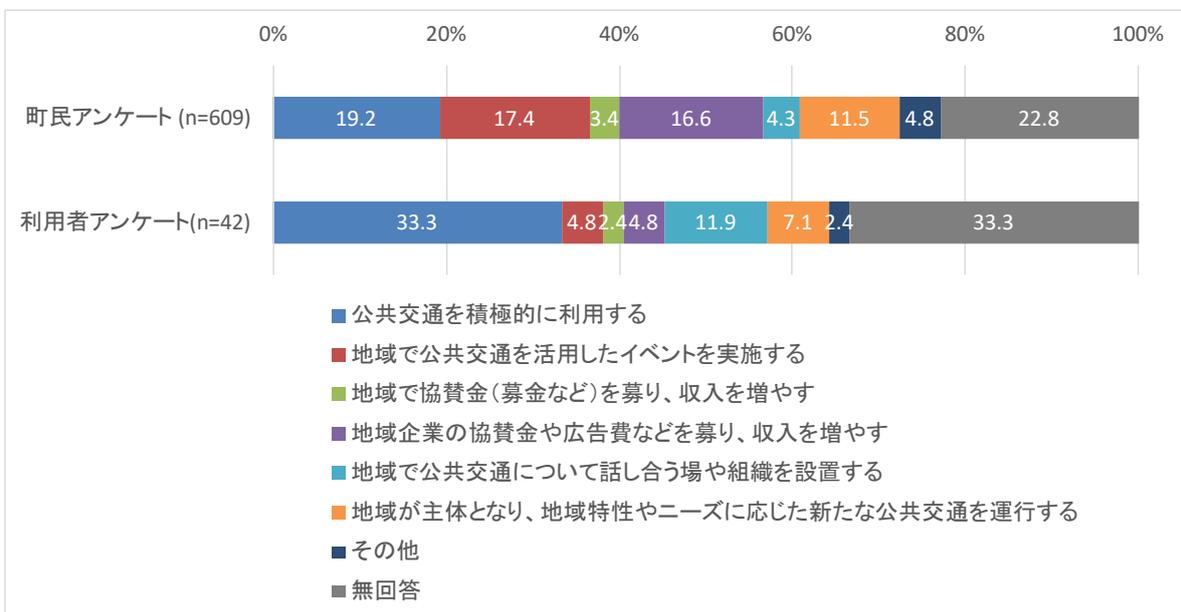
資料：町民アンケート調査

図 3-13 公共交通の利用頻度



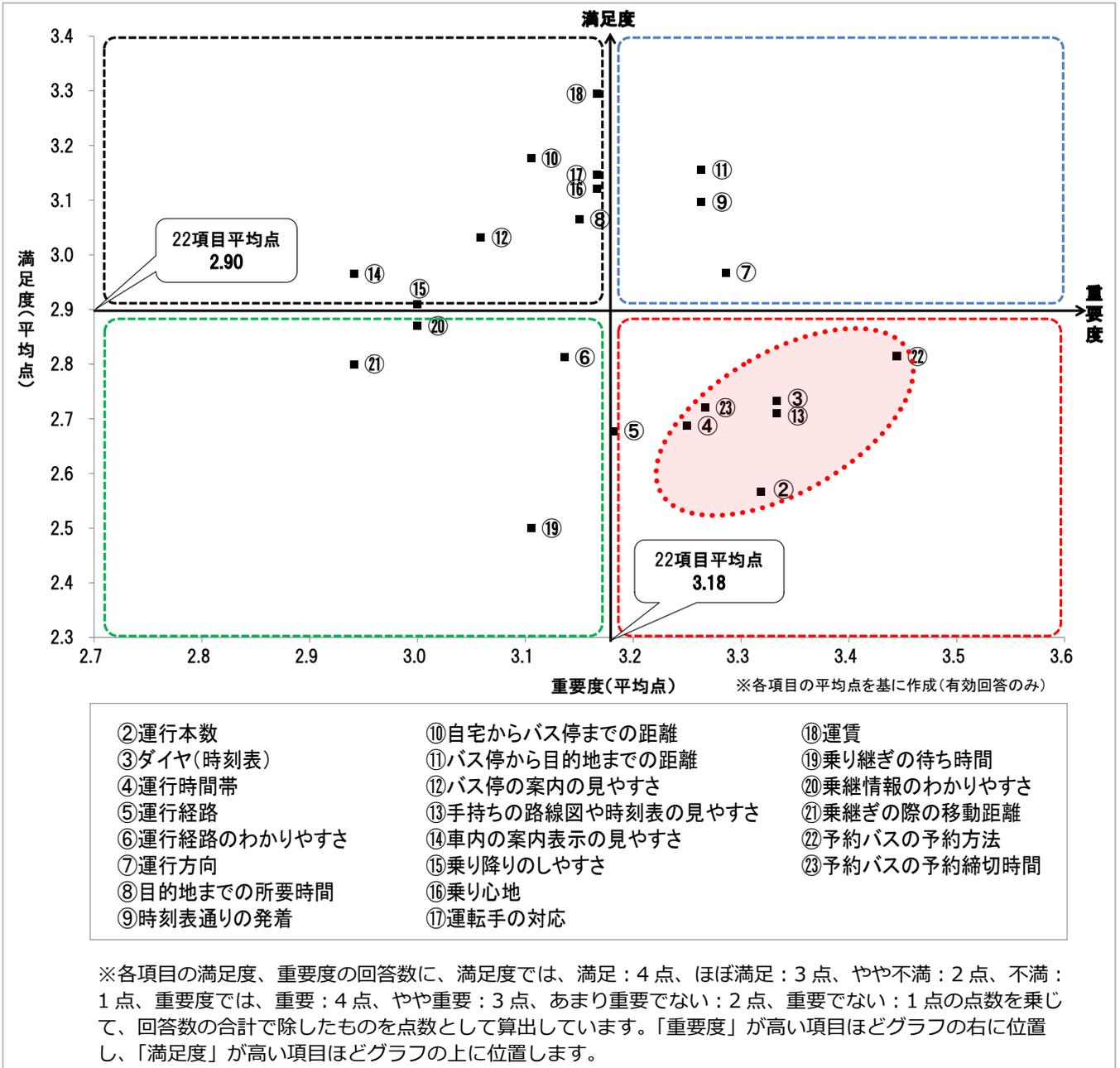
資料：町民アンケート調査

図 3-14 公共交通を確保・維持するために取り組めること



資料：町民、利用者アンケート調査

図3-15 「現状の満足度」と「これからの重要度」の相関図



資料：利用者アンケート調査

御嵩町における地域公共交通の課題

① 路線で異なる利用目的や非利用者が利用可能となる移動ニーズ等への対応

- 町民の移動は自由目的（買物、通院、飲食・娯楽など）の割合が高く、買物は町内、通院、飲食・娯楽などは可児市への移動が主体を占めています。当面は、高齢者の人口、割合ともに増加傾向にあることから、更なる増加が予測される自由目的の移動需要に対応する必要があります。（図 1,2）
- 町民アンケートより、ふれあいバス・予約バスの非利用者の利用が可能となる条件として、「利用したい時間帯に運行している」、「予約が簡単」などの項目が挙げられることから、これら非利用者の利用が可能となるバスサービスの改善を図る必要があります。（図 3）
- 乗降調査より、各バス路線の利用目的は、みたけ・なか線、ふしみ線、かみのごう線は「通院・お見舞い」、「買物」が約 21～34%、みたけ・なか線では「観光・レクリエーション」も約 31%、工業団地・南山台線は「通勤」が約 77%となっていることから、路線で異なる利用特性に即したバスサービスを展開する必要があります。（図 4）

② 将来都市構造の構築を見据えた公共交通の役割の明確化

- 御嵩町は拠点連携型の都市構造を目指しており、歴史文化交流拠点と位置付けられる御嵩駅周辺を中心としつつ、各地域との連携はバスやタクシーなど公共交通相互がネットワークすることで、将来都市構造の構築を支える役割が期待されています。（図 5）
- 乗降調査より、みたけ・なか線の利用者の約 90%が御嵩町内を最終目的地とする一方、工業団地・南山台線は、名鉄広見線の乗り継ぎが約 55%を占めることから、町内移動の充実とともに名鉄広見線へのアクセス機能に対応したバスサービスの充実を図る必要があります。（図 6,7）

③ 御嵩町及び周辺都市を含めた交通圏の移動需要に対応した公共交通手段の確保

- 国勢調査や各種アンケートより、御嵩町は通勤・通学や観光目的で隣接する可児市・八百津町との結びつきが強い傾向にあります。しかし、これら隣接する可児市、八百津町への移動は、東西方向の名鉄広見線が一定頻度で運行するものの、南北方向は主に通学需要に対応した YAO バスが運行する他、各市町に分布する商業・医療・観光等施設への移動需要に対応した広域的な公共交通は存在しないことから、新たな広域公共交通路線について、関係者間で協議・調整を図る必要があります。
- 町民・利用者アンケートより、公共交通を確保・維持するためには「公共交通を積極的に利用する」、「公共交通を活用したイベントの実施」、「公共交通について話し合う場や組織の設置」などの声が挙げられることから、交通事業者、利用者・地域住民及び行政など、地域の公共交通に携わる関係者が連携・協働した取り組みを推進する必要があります。（図 8,9,14）
- 御嵩町に関連する広域的な移動需要に対応するため、可児市や八百津町へ連絡する名鉄広見線や新たな広域公共交通サービスの確保が重要となります。
- 御嵩町及び周辺地域のおすすめスポットとして、可児市の花フェスタ記念公園や八百津町の人道の丘公園（杉原千畝記念館）、御嵩町の鬼岩公園などが上位に挙げられることから、これら観光・レクリエーション施設と公共交通が連携した地域の魅力を創出するバスサービスを展開する必要があります。

④ わかりやすい情報・案内の提供や利用しやすいバス交通へのサービス改善

- 公共交通による町人口のカバー率は約 89%、町内の主要集客施設は概ねカバーされることを背景とし、町民アンケートではふれあいバスの認知度は約 84%と高い一方、バスで行くことのできる施設の認知度は約 13%に留まっていることから、各種バスサービスを知っていただき、利用していただくためにも、わかりやすい情報・案内を提供する必要があります。（図 10,11,12,13）
- 利用者アンケートより、現状の満足度が低く、今後の重要度が高いバスサービス項目は、「運行本数」「ダイヤ」「運行時間帯」「手持ちの路線図や時刻表の見やすさ」「予約バスの予約方法」「予約バスの予約締め切り時間」などが挙げられることから、利用しやすいバス交通とするためにサービス改善に取り組む必要があります。（図 15）

4 地域公共交通の活性化及び再生の推進に関する基本的な方針

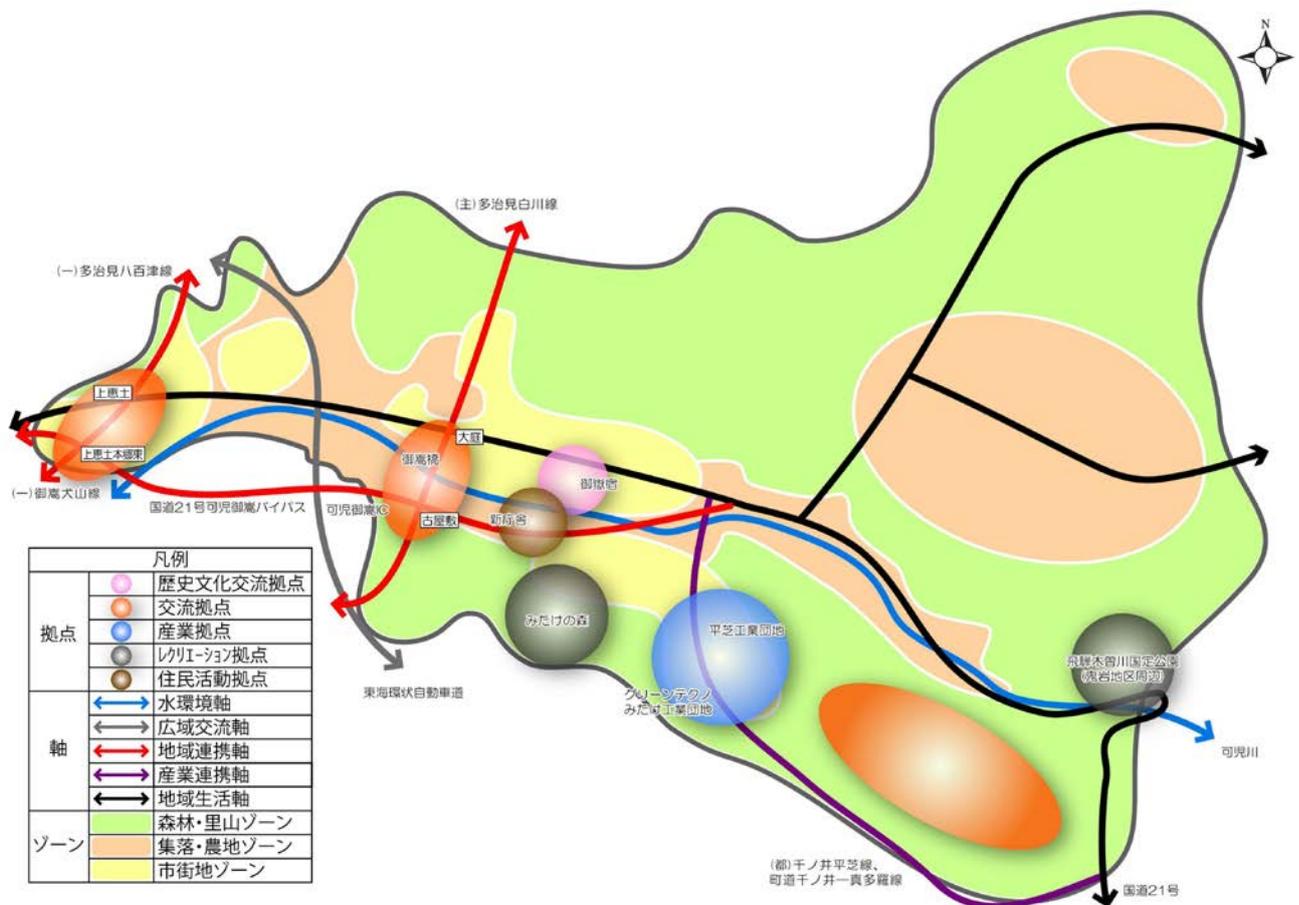
(1) 御嵩町の交通将来像

御嵩町第五次総合計画では、「つながる・あふれる・輝くまち」をまちの将来像として、地域の暮らしの安全・安心に結びつく人と人との絆、地域とのつながりを確かなまちの財産として育てていくとともに、緑豊かな自然環境をはじめとする地域の資源、まちの個性に磨きをかけ、人、もの、情報の交流を育むことで、一人ひとりが活躍し、みんなが生きがいと希望にみちた魅力ある町を目指しています。公共交通については、近隣市町村や各種団体などとの連携を図りながら、名鉄広見線の利用拡大に向けた取組を推進するとともに、バスと自動車、自転車との連携強化が方針とされています。

また、御嵩町都市計画マスタープランでは拠点連携型の都市構造を目指しており、歴史文化交流拠点と位置付けられる御嵩駅周辺を中心としつつ、交流拠点、産業拠点等、各地域との連携はバスやタクシーなど公共交通相互がネットワークすることで、将来都市構造の構築を支える役割が期待されています。

これらより、御嵩町の交通将来像は、「みたけファンのくらしと交流を支える交通のまち」とします。御嵩町における地域公共交通の活性化及び再生の推進にあたっては、地域公共交通に関わる全ての関係者と連携・協働した取組を推進することで、御嵩町の公共交通のめざす姿を実現します。

図 4-1 将来都市構造図



出典：御嵩町都市計画マスタープラン

(2)地域公共交通の基本方針

御嵩町における地域公共交通の課題及び御嵩町が目指す将来交通像「みたけファンのくらしと交流を支える交通のまち」を受け、以下に公共交通の基本方針を示します。

交通将来像

「みたけファンのくらしと交流を支える交通のまち」

> 課題①②③ 基本方針Ⅰ

御嵩町の将来都市構造を支える公共交通ネットワークの形成

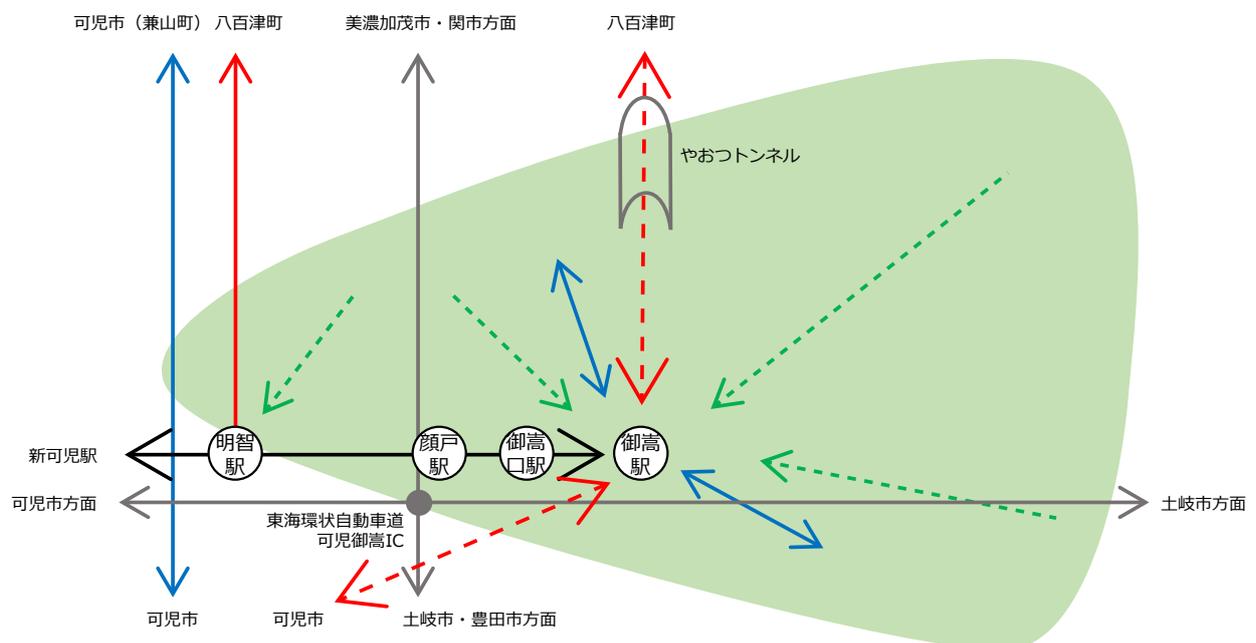
> 課題①③ 基本方針Ⅱ

広域連携・交流を促進する新たな広域路線の導入に向けた取り組みの推進

> 課題①②④ 基本方針Ⅲ

わかりやすく・利用しやすい公共交通利用促進施策の展開

図 4-2 御嵩町における交通体系のイメージ



> 課題①②③ 基本方針Ⅰ

御嵩町の将来都市構造を支える公共交通ネットワークの形成

- 御嵩町の将来都市構造の核として機能する御嵩駅周辺を中心として、交流拠点や産業拠点、レクリエーション拠点等へのスムーズな移動環境を創出します。
- 都市内移動需要に対応したふれあいバスを地域交流路線、ふれあい予約バスを生活交流路線として位置づけ、町民の日常生活や来訪者の観光移動需要に対応します。
- 交通結節点においては、名鉄広見線、ふれあいバス、タクシー等、公共交通相互の接続を確保し、利便性の高い公共交通ネットワークを形成します。

> 課題①③ 基本方針Ⅱ

広域連携・交流を促進する新たな広域路線の導入に向けた取り組みの推進

- 都市間移動需要に対応した名鉄広見線を公共交通軸として位置づけ、サービス水準を維持します。
- 御嵩町・可児市・八百津町が連携・協働し、名鉄広見線を東西方向の公共交通軸としつつ、南北方向の新たな広域バス路線の導入に係る取り組みを進めていきます。
- 御嵩町、可児市、八百津町等、周辺市町を含めた地域の魅力ある観光・レクリエーション資源と公共交通が連携し、インバウンド需要への対応を図ります。

> 課題①②④ 基本方針Ⅲ

わかりやすく・利用しやすい公共交通利用促進施策の展開

- ふれあいバス、ふれあい予約バスの各路線で異なる利用目的、今後の町人口の動向、バスの非利用者が利用可能となる条件など、変化・多様化する移動ニーズに対応した運行サービスを提供します。
- 普段公共交通を利用していない町民や、インバウンドを含む、初めて御嵩町を訪れた来訪者も不安なく利用できる、わかりやすい情報（ルート・バス停・運行状況等）を提供します。
- 地域公共交通を確保・維持し、日常的な利用頻度を高めるため、地域住民や団体も含めた全ての関係者が連携・協働した取り組みを実施します。

5 計画の区域と期間

(1) 計画の区域

御嵩町地域公共交通網形成計画は、町内を運行する公共交通全体の確保・維持・改善を図るとともに、路線再編を一体的に取り扱うことから、計画の区域は御嵩町全域とします。

なお、御嵩町・可児市・八百津町の交通圏における連携を強化・充実するため、隣接市町とは個別に協議・調整を図ります。

(2) 計画の期間

御嵩町地域公共交通網形成計画は、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の基本方針で示される5年程度を原則としつつ、上位・関連計画である第五次御嵩町総合計画および御嵩町都市計画マスタープランの将来都市像や将来都市構造に示すまちづくりの実現を支援するため、これら上位・関連計画と整合した目標年度とする必要があるため、本計画の期間は2020年度から2025年度までの6か年とします。

なお、計画期間内であっても、公共交通の利用に係る安全性の確保や利便性の向上について、個別の見直し事項等が発生した場合には、適切な時期に見直しを実施するものとします。

図5-1 地域公共交通網形成計画と上位・関連計画における計画期間の関係（予定）

計画 年度	総合計画	都市計画 マスタープラン	地域公共交通 網形成計画
2016	第五次計画	第一次	
2017			
2018			
2019			
2020			
2021		第二次計画	
2022			
2023			
2024			
2025			
2026	第六次		第二次
2027			
2028			
2029			第三次
2030			
2031			
2032			

* 第六次総合計画、第二次都市計画マスタープランおよび第二次地域公共交通網形成計画の計画年度は予定

6 計画の目標

御嵩町が目指す交通将来像の達成度を検証するため、地域公共交通網形成計画で定めた3つの基本方針に基づき、目標および目標値を設定します。

交通将来像

「みたけファンのくらしと交流を支える交通のまち」



> 課題①②③ 基本方針Ⅰ

御嵩町の将来都市構造を支える公共交通ネットワークの形成

<目標> 町内の公共交通の利便性向上

<指標> 町内の公共交通の利用者数、公共交通全体の満足度

> 課題①③ 基本方針Ⅱ

広域連携・交流を促進する新たな広域路線の導入に向けた取り組みの推進

<目標> 周辺市町など広域的な移動の増加

<指標> 名鉄広見線の利用者数、主要観光施設の観光入込客数

> 課題①②④ 基本方針Ⅲ

わかりやすく・利用しやすい公共交通利用促進施策の展開

<目標> 公共交通の認知度・満足度の向上

<指標> 公共交通の認知度、利用しやすさの満足度、関係者が連携・協働した取り組みの件数

表 6-1 目標値の設定

基本目標	目標基準値（2025 年度）		
【基本目標Ⅰ】	【目標指標】公共交通全体の利用者数の増加		
		目標値	現況値
	公共交通全体の利用者数 ^{※1}	3,030 人/日	2,973 人/日
	(交通事業者、御高町提供データ)		
	【目標指標】公共交通の不満割合の減少		
		目標値	現況値
	公共交通全体の不満割合 ^{※2}	現況値以下	22.8%
(町民アンケート)			
<p>※1：名鉄広見線・ふれあいバス・ふれあい予約バス・YAO バス・可児市さつきバス・一般タクシーの年間利用者合計 ※2：町民アンケートの公共交通全体の満足度のうち、「不満」と「やや不満」の回答割合の合計</p>			
【基本目標Ⅱ】	【目標指標】名鉄広見線の利用者数の増加		
		目標値	現況値
	名鉄広見線の年間利用者数 ^{※3}	896,100 人	896,043 人
	(交通事業者提供データ)		
	【目標指標】可児・御高・八百津の主要観光施設の観光入込客数の増加		
		目標値	現況値
	花フェスタ記念公園・人道の丘公園・中山道みたけ館の年間観光入込客数	545,900 人	463,694 人
(岐阜県観光入込客数統計)			
<p>※3：名鉄広見線の全ての駅の年間乗車客数の合計</p>			
【基本目標Ⅲ】	【目標指標】公共交通の認知度の向上		
		目標値	現況値
	自宅近くを走るバスの運行経路の認知度 ^{※4}	現況以上	10.0%
	自宅近くを走るバスで行くことのできる施設の認知度 ^{※4}	現況以上	12.8%
	自宅近くを走るバスの乗り方の認知度 ^{※4}	現況以上	13.3%
	(町民アンケート)		
	【目標指標】公共交通の利用しやすさの不満割合の減少		
		目標値	現況値
	ダイヤ（時刻表）の不満割合 ^{※5}	現況以下	30.0%
	運行経路の不満割合 ^{※5}	現況以下	38.7%
	手持ちの路線図や時刻表の見やすさの不満割合 ^{※5}	現況以下	41.9%
	(利用者アンケート)		
<p>※4：町民アンケートの項目別認知度 ※5：利用者アンケートの項目別満足度</p>			
【目標指標】関係者が連携・協働した取り組みの件数			
	目標値	現況値	
関係者が連携・協働した取り組みの件数	現況以上	年間 9 件	

7 目標を達成するために行う事業と実施主体

(1) 公共交通の種類とサービス水準の設定

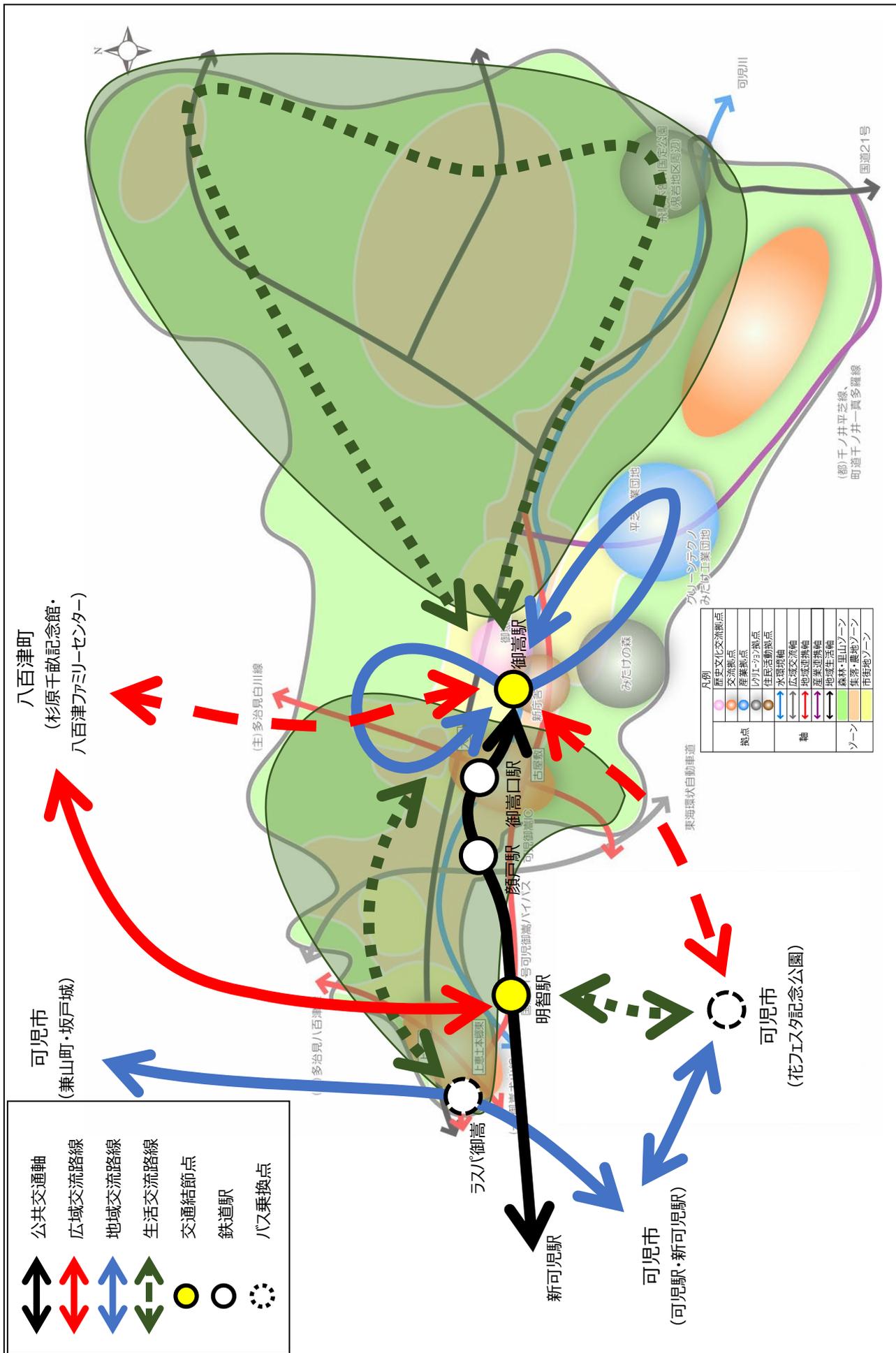
前章までに、御嵩町の公共交通の現状や、各種ニーズ調査の結果から整理した地域公共交通の課題を踏まえた交通将来像を設定し、その交通将来像を実現するため、地域公共交通の基本方針並びに計画の目標を定めました。

本章では、計画の目標を達成するために行う事業と、それぞれの事業の実施主体を整理します。また、ここでは、御嵩町の公共交通ネットワークを構成する各路線の機能を明確化し、サービス確保の考え方について整理します。

表 7-1 御嵩町の地域公共交通の路線機能に基づくサービス確保の考え方

種類	路線機能	サービス確保の考え方	運営	料金体系	該当する路線・地区
公共交通軸	御嵩町内と可児市方面を結ぶ、都市間移動ニーズに対応した路線	<ul style="list-style-type: none"> ・移動ニーズに対応した現行サービス水準の確保 ・交通事業者が沿線市町と連携して運行 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事業者 	対距離制運賃	<ul style="list-style-type: none"> ・名鉄広見線
広域交流路線	八百津高校への通学を中心としながら、地域の移動ニーズに対応した路線	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね 30～60 分に 1 本の運行 ・運行時間帯は 6～21 時台 ・通学や沿線住民の利用者ニーズに応じたサービスを確保 ・交通事業者が沿線市町及び学校、関連団体と連携して運行 	<ul style="list-style-type: none"> ・八百津町 ・御嵩町 ・可児市 	対距離制運賃	<ul style="list-style-type: none"> ・YAO バス
	御嵩町を中心とした、可児市や八百津町の観光資源を結ぶ、まちづくりやみたくファン観光を支援・誘導する路線	<ul style="list-style-type: none"> ・運行本数や時間帯については、沿線の観光資源へアクセスすることを踏まえて設定 ・交通事業者と沿線市町及び観光施設が連携して運行 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事業者 ・御嵩町 ・可児市 ・八百津町 	対距離制運賃	<ul style="list-style-type: none"> ・新設路線
地域交流路線	公共交通軸に接続し、広域支援路線を補完する形として、御嵩駅周辺を中心とした町民の移動ニーズや、町内の通勤・通学に対応した路線 昼間時間帯では、生活支援路線と連携して町民の足となり、御嵩町での生活を楽しく送ることができるように配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね 60 分に 1 本の運行 ・運行時間帯は 6～20 時台 ・町内の人口集積地と主要な施設を結ぶとともに、通勤・通学利用者のニーズに応じたサービスを確保 ・御嵩町が町民や交通事業者と連携し運行内容を協議・調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・御嵩町 ・町民 ・交通事業者 	均一料金	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいバス ・さつきバス ・東鉄バス
生活交流路線	各地域と医療・商業・公共施設等をきめ細かく連絡し、地域支援路線がサービスされない地域を含めた、日常生活を支援する路線	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね 60 分に 1 本の運行 ・運行時間帯は 7～17 時台 ・町民の生活移動ニーズに対応するとともに、上之郷地区では、通学に対応したサービスを確保 ・御嵩町が町民や交通事業者と連携し運行内容を協議・調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・御嵩町 ・町民 ・交通事業者 	均一料金	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい予約バス
個別輸送	上記交通に対して、空間的・時間的な補完関係を持った、個別の移動ニーズに対応した交通	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の移動ニーズに対して、柔軟に対応できるサービス水準を確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事業者 	対距離時間制運賃	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシー
その他	既存公共交通サービスの利用が困難な特定地域の高齢者や、障がい者等の特定利用者の移送サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・特定地区の高齢者や障がい者、要介護者の通院などの移動需要と地域の特性に応じたサービスを地域住民や NPO 等が確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民 ・NPO 等 	実費相当額・対距離制運賃等	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア輸送

図 7-1 公共交通ネットワークの再編イメージ



(2)公共交通ネットワーク形成の方針

御嵩町の地域公共交通の基本方針に基づき、公共交通ネットワーク形成の方針について以下の通り整理します。

基本方針Ⅰ

御嵩町の将来都市構造を支える公共交通ネットワークの形成

基本方針Ⅱ

名鉄広見線を軸に広域連携・交流を促進する新たな広域路線の導入検討

基本方針Ⅲ

わかりやすく・利用しやすい公共交通利用促進施策の展開

【公共交通ネットワーク形成の方針】

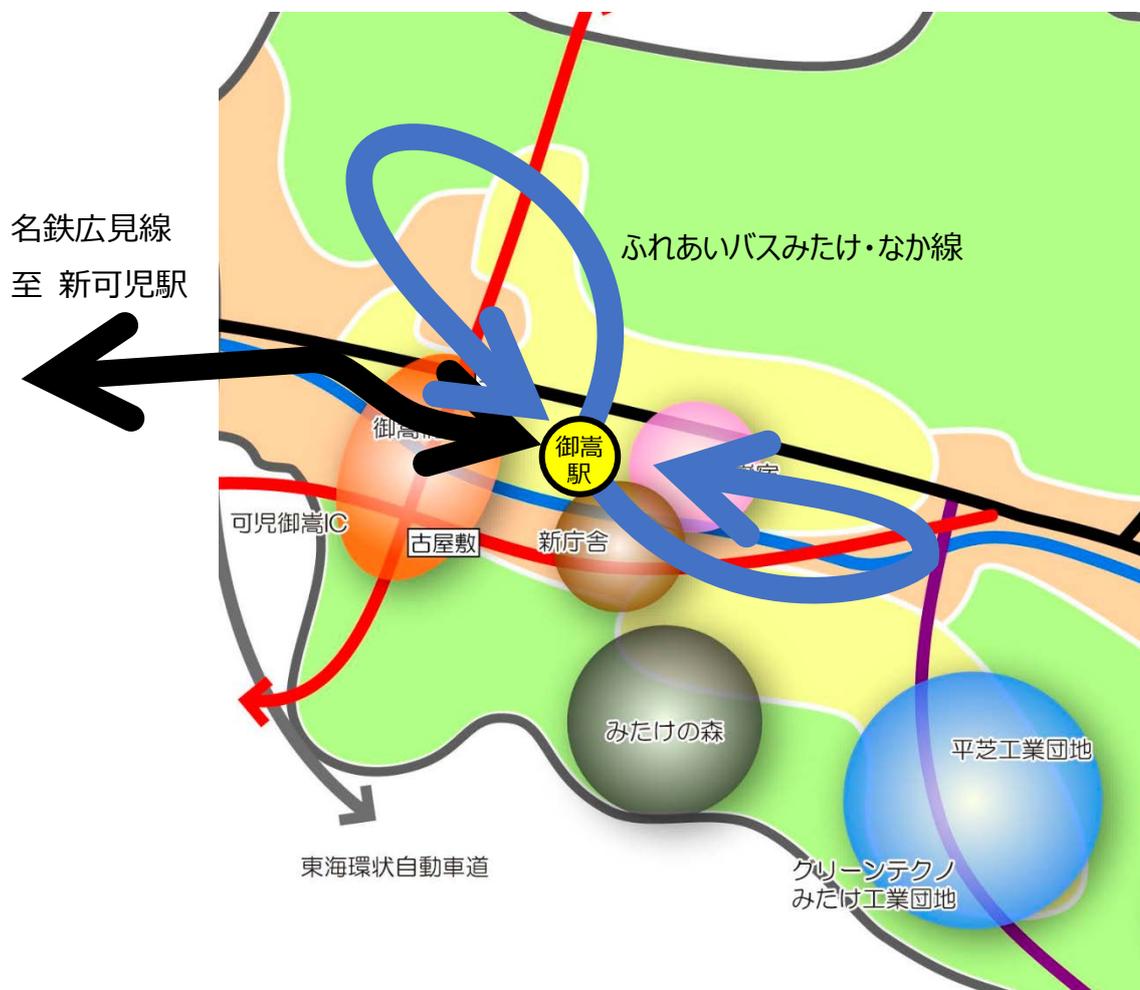
- ✓ 名鉄広見線を公共交通ネットワークの中心となる公共交通軸として位置づけます。
- ✓ 広域交流路線に位置付けた YAO バスは、明智駅への鉄道アクセスを確保するとともに、平日は高校生の通学需要への対応、休日はまちづくりや観光振興に寄与する路線として位置づけ、周辺市町との協議の場を設けます。
- ✓ 地域交流路線に位置付けたふれあいバスは、公共交通軸に接続し、広域交流路線を補完する形で、町内の通勤・通学需要に対応したサービスを確保するとともに、御嵩駅を中心とした町民の生活移動需要に対応したサービスを確保します。
- ✓ ふれあいバスのうちみたけ・なか線について、御嵩駅に止まる回数を増加させ、御嵩駅を中心とした路線とします。
- ✓ 生活交流路線に位置付けたふれあい予約バスは、バス車両として対応する需要が見込めない地域において、各地域の生活圏に合わせたきめ細やかなサービスを確保します。
- ✓ 交通結節点においては、待合環境や乗継環境の整備・充実を図ります。交通結節点のうち御嵩駅では、総合情報案内板を設置するなど、わかりやすい交通情報を提供します。

●ネットワーク形成に向けた路線再編などの具体的な取り組み

実施事業	実施内容	実施年度	実施主体
公共交通ネットワークの再編	地域交流路線の再編	検討・協議 2020年度 再編の実施 2021年度（予定）～	御嵩町・交通事業者

- ふれあいバスみたけ・なか線について、御嵩駅へのアクセス利便性を向上させるため、路線の再編を行います。
- 現在、御嵩駅を発着点として右回り・左回りを1時間おきに運行している路線を、8の字の路線とすることで、御嵩駅へアクセスする回数を増加させます。

図 7-2 ふれあいバスみたけ・なか線の再編



(3)交通結節点の整備方針

前項の公共交通ネットワーク形成の方針で位置づけた交通結節点について、御嵩町、交通事業者及び施設管理者等が連携し、公共交通相互及びその他の交通モードとの円滑な乗り継ぎが可能となる施策・事業を展開することで、利用しやすい公共交通環境を創出します。

表 7-2 対象となる交通結節点と実施する取り組み

対象となる交通結節点	町内：御嵩駅、顔戸駅、御嵩口駅 町外：明智駅
実施する取り組み	✓ 待合環境の整備（ベンチ・屋根等）の充実 ✓ 乗り継ぎ案内や観光情報の提供 ✓ 総合情報案内版（デジタルサイネージ）の設置 ✓ 乗り継ぎしやすいダイヤの設定 ✓ パークアンドライド駐車場や駐輪場の充実

(4)公共交通の利用促進施策

御嵩町が目指す交通将来像の実現に向け、町民や来街者といった“みたけファン”が、地域公共交通に親しみを持ち、利用したくなる環境づくりが重要です。そのためには、みたけファンをはじめ、地域企業や団体、交通事業者など、地域公共交通に関わる全ての関係者が連携・協働して、各種利用促進施策を実施する必要があります。

ここでは、地域公共交通の利用促進に関わる取り組みについて、その内容やスケジュール、実施主体について整理します。

表 7-3 公共交通の利用促進施策

基本方針との対応	施策の分類	実施主体	施策実施の方向性
基本方針Ⅱ	①利用者にとってわかりやすい交通情報の提供	御嵩町・町民・交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通に関する情報をわかりやすく提供することで、普段公共交通に馴染みのない利用者でも利用しやすい環境を創出 現在の利用者にとって、利便性の向上に資するとともに、新規利用者や町外利用者にとって、利用したくなる企画により、公共交通の新たな利用者を誘引
	②多様な方法での公共交通情報の周知・広報	御嵩町・交通事業者	
	③利用しやすい運賃の支払い方法や企画切符等の導入	御嵩町・地域企業・各種団体・交通事業者	
	④公共交通の利用機会の創出・増加につながる施策の実施	御嵩町・交通事業者	
	⑤利用者にも環境にもやさしい車両の導入	御嵩町・交通事業者	
基本方針Ⅲ	⑥みたけファンと一体となった利用促進施策の実施	御嵩町・町民	<ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通に関わる全ての関係者が連携・協働し、公共交通を支える取り組みを行うことで、継続的に地域公共交通を運行する意識を醸成
	⑦地域企業や各種団体と一体となった利用促進施策の実施	御嵩町・地域企業・各種団体	

表 7-4 利用促進施策として行う具体的な取り組み

実施事業	実施内容	実施年度	実施主体
①利用者にとってわかりやすい交通情報の提供	時刻表・路線図の見直し・作成	新規 2020～2025 年度	御嵩町・町民・ 交通事業者
	公共交通情報の多言語化	新規 2021～2025 年度	御嵩町
	バスロケーションシステムの導入 (バス接近情報の提供)	新規 2022～2025 年度	御嵩町・交通事業者
	わかりやすいバス停名への変更	新規 2020～2025 年度	御嵩町・町民
	バス運行情報の GTFS 化	新規 2021～2025 年度	御嵩町・交通事業者
②多様な方法での公共交通情報の周知・広報	公共交通を利用したイベント等の 広報（町 Web サイト・広報など）	継続 2020～2025 年度	御嵩町・イベント主催者
	各種イベントポスター等への 公共交通情報の掲載	継続 2020～2025 年度	イベント主催者・御嵩町
	ケーブルテレビやコミュニティ FM での 公共交通情報の発信	新規 2021～2025 年度	御嵩町・放送事業者
	公共交通の利用状況の発信	継続 2020～2025 年度	御嵩町
③利用しやすい運賃の支払い方法	ふれあいバス・ふれあい予約バスにお ける定期券・回数券の発行	継続 2020～2025 年度	御嵩町・交通事業者
	障がい者の運賃割引制度 (ふれあい予約バス) の継続運用	継続 2020～2025 年度	御嵩町・交通事業者
④公共交通の利用機会の創出・増加につながる施策の実施	戦国武将のイラスト入り乗車証明書 の発行	新規 2020～2025 年度	御嵩町・可児市・ 八百津町・交通事業者
	次回乗車のための予約カードの発行	新規 2020～2025 年度	御嵩町・交通事業者
⑤利用者にも環境にもやさしい車両の導入	ノンステップバスの導入	継続 2020～2025 年度	御嵩町・交通事業者
⑥みたけファンと一体となった利用促進施策の実施	モデルダイヤ作成によるお出かけ シミュレーション	継続 2020～2025 年度	御嵩町・町民
	車内デコレーションやイベント時の 装飾	新規 2020～2025 年度	町民・御嵩町・ 交通事業者
	サロン運営者や民生委員と協力した 乗り方教室の実施	新規 2021～2025 年度	町民・御嵩町・ 交通事業者
	地域住民によるバス停環境の整備	新規 2020～2025 年度	町民・御嵩町

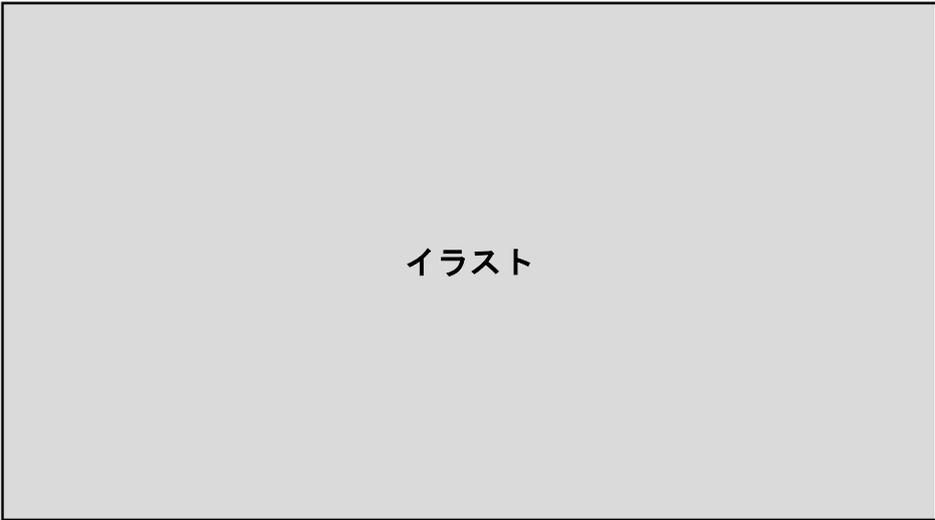
実施事業	実施内容	実施年度	実施主体
⑦地域企業や各種団体と一体となった利用促進施策の実施	コンビニを活用したミーティングポイントの設置	新規 2020～2025年度	御嵩町・商業施設・ 交通事業者
	バス車内での広告の掲載	継続 2020～2025年度	御嵩町・地域企業・ 交通事業者
	バス停のネーミングライツ制度や 広告の掲載	新規 2020～2025年度	御嵩町・地域企業・ 交通事業者
	ノーマイカー出勤の実施	継続 2020～2025年度	御嵩町・地域企業

●公共交通の利用促進施策として行う具体的な取り組み

④公共交通の利用機会の創出・増加につながる施策の実施

【取り組み：戦国武将のイラスト入り乗車証明書の発行】

- 御嵩町・可児市・八百津町が連携して、それぞれが運行するバス（御嵩町：ふれあいバス、可児市：さつきバス、八百津町：YAOバス）の「乗車証明書」を配布します
- 3市町それぞれのゆかりの戦国武将（御嵩町：可児才蔵、可児市：明智光秀、八百津町：森乱丸）のイラストが描かれた乗車証明書とします

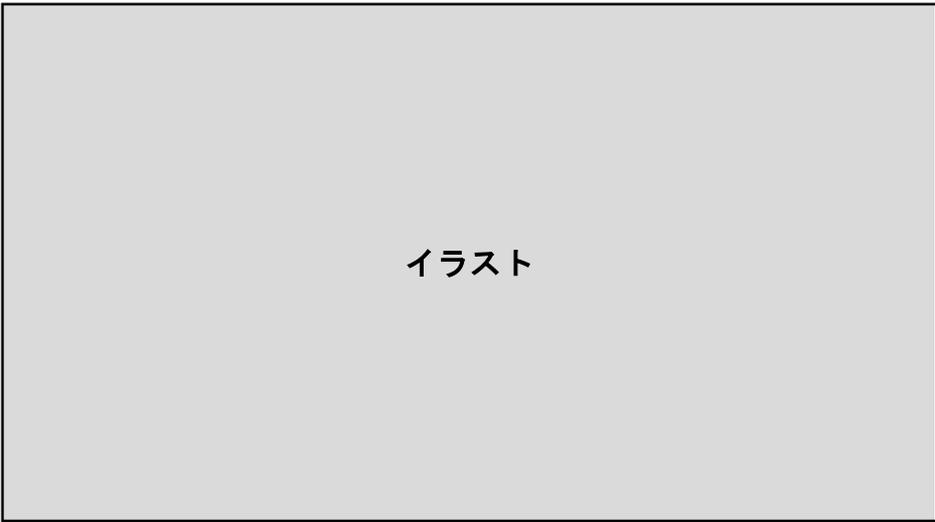


イラスト

⑦地域企業や各種団体と一体となった利用促進施策の実施

【取り組み：コンビニを活用したミーティングポイントの設置】

- 町内のコンビニエンスストアとふれあい予約バスのミーティングポイントを一体化させ、買い物の利便性を向上させるとともに、バスを待つ時間を快適に過ごせるようにします。
- 町内の全てのコンビニエンスストアには、イートインスペースが設置されており、コンビニエンスストアのオーナーと連携することで、快適なバスの待合環境を創出します。



イラスト

(5)事業実施のスケジュールと実施主体

御嵩町地域公共交通網形成計画の目標を達成するために実施する各種施策・事業について、その実施スケジュールと実施主体を下表において整理します。

実施事業		実施内容
1. 公共交通ネットワークの再編		公共交通軸（鉄道）の運行
		広域交流路線（YAOバス）の運行
		広域交流路線（新設路線）の導入検討
		地域交流路線（ふれあいバス）の運行
		地域交流路線（ふれあいバスみたけ・なか線）の再編
		生活交流路線（ふれあい予約バス）の運行
		個別輸送（タクシー）の運行
		周辺市町と連携した公共交通ネットワークの確保・維持
2. 交通結節点の整備		御嵩駅における総合案内板（デジタルサイネージ）の設置
		待合環境（上屋・ベンチ等）の充実
		パークアンドライド駐車場や駐輪場の充実
		交通結節点における乗り継ぎを考慮したバスのダイヤ設定
3. 公共交通の利用促進施策	① 利用者にとってわかりやすい交通情報の提供	時刻表・路線図の見直し・作成
		公共交通情報の多言語化
		バスロケーションシステムの導入（バス接近情報の提供）
		わかりやすいバス停名への変更
		バス運行情報のGTFIS化
	② 多様な方法での公共交通情報の周知・広報	公共交通を利用したイベント等の広報（町Webサイト・広報など）
		各種イベントポスター等への公共交通情報の掲載
		ケーブルテレビやコミュニティFMでの公共交通情報の発信
		公共交通の利用状況の発信
	③ 利用しやすい運賃の支払い方法や企画切符の導入	ふれあいバス・ふれあい予約バスにおける定期券・回数券の発行
		障がい者の運賃割引制度（ふれあい予約バス）の継続運用
	④ 公共交通の利用機会の創出・増加につながる施策の実施	戦国武将のイラスト入り乗車証明書の発行
		次回乗車のための予約カードの発行
	⑤ 利用者にも環境にもやさしい車両の導入	ノンステップバスの導入
	⑥ みたけファンと一体となった利用促進施策の実施	モデルダイヤ作成によるお出かけシミュレーション
		車内デコレーションやイベント時の装飾
		サロン運営者や民生委員と協力した乗り方教室の実施
		地域住民によるバス停環境の整備
	⑦ 地域企業や各種団体と一体となった利用促進施策の実施	コンビニを活用したミーティングポイントの設置
		バス車内での広告の掲載
		バス停のネーミングライツ制度や広告の掲載
ノーマイカー出勤の実施		
名鉄広見線活性化施策（御嵩町関連分継続事業）		
4. 評価及び推進体制		御嵩町ふれあいバス等公共交通研究会の開催
		地域公共交通会議の開催
		（各種施策・事業の実施、計画目標の評価、対策案の検討など）

□事業準備(検討・協議を含む) ■事業実施(継続を含む)

実施予定年度						実施主体
2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
						交通事業者
						交通事業者
						御高町・可児市・八百津町・岐阜県・交通事業者
						御高町・交通事業者
						御高町・交通事業者
						御高町・交通事業者
						交通事業者
						御高町・可児市・八百津町・交通事業者
						御高町・交通事業者
						御高町・施設管理者
						御高町・施設管理者
						御高町・交通事業者
						御高町・町民・交通事業者
						御高町
						御高町・交通事業者
						御高町・町民
						御高町・交通事業者
						御高町・イベント主催者
						イベント主催者・御高町
						御高町・放送事業者
						御高町
						御高町・交通事業者
						御高町・交通事業者
						御高町・可児市・八百津町・交通事業者
						御高町・交通事業者
						御高町・交通事業者
						御高町・町民
						町民・御高町・交通事業者
						町民・御高町・交通事業者
						町民・御高町
						御高町・商業施設・交通事業者
						御高町・地域企業・交通事業者
						御高町・地域企業・交通事業者
						御高町・地域企業
						名鉄広見線(新可児駅~御高駅)活性化協議会
						御高町・町民
						御高町地域公共交通会議

8 計画の達成状況の評価に関する事項

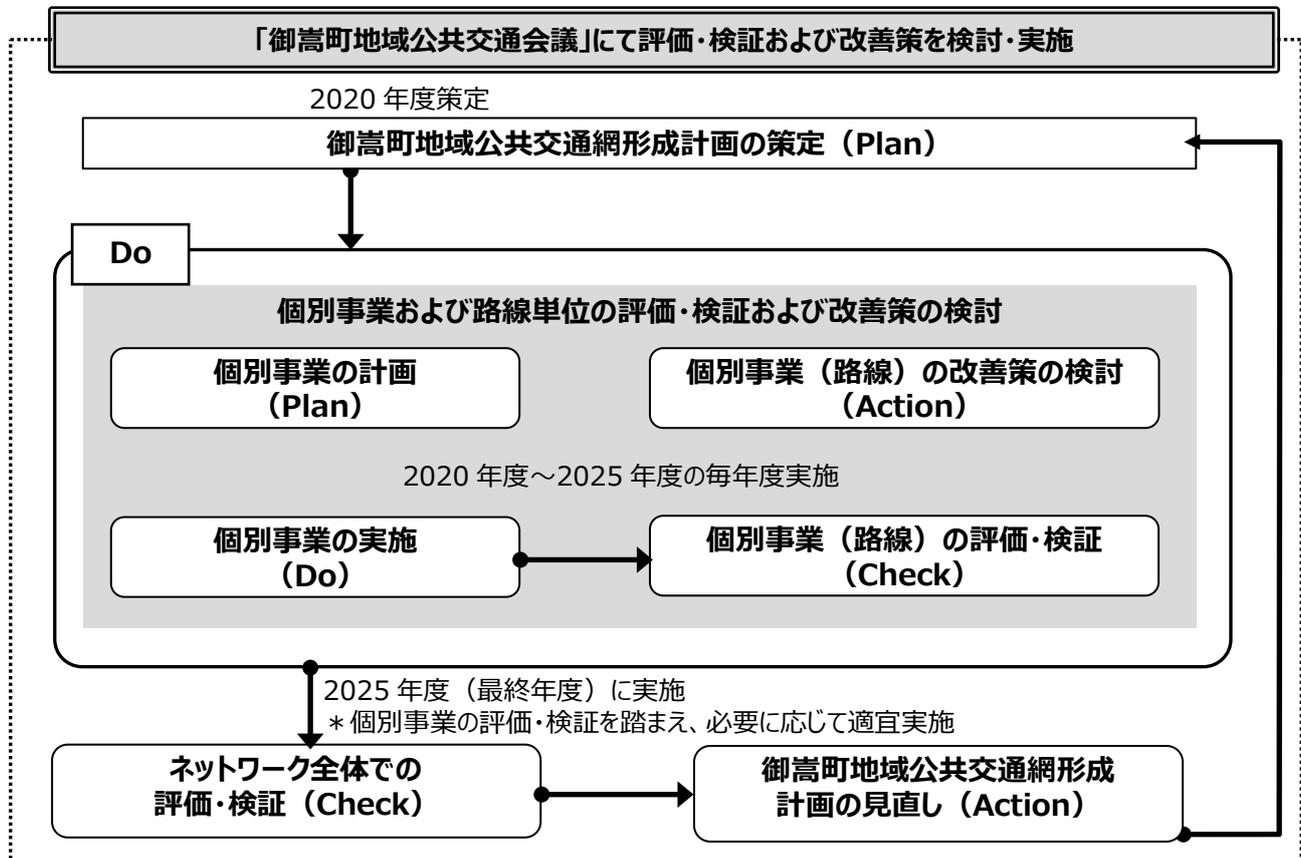
(1) 評価・検証の考え方及びその手順

本計画は、計画の策定（P）、事業の実施（D）、評価・検証（C）、改善策の検討・計画の見直し（A）といったPDCAサイクルを毎年度実施することで効果的な事業の推進を図ります。また、計画に基づき実施した事業の効果や影響を総合的に捉え、計画目標の達成状況を評価・検証することで、計画期間最終年度に御嵩町地域公共交通網形成計画の見直しを実施します。

<評価・検証の考え方>

- ・公共交通ネットワーク全体としては、計画期間の最終年度に御嵩町地域公共交通会議にて評価・検証および改善策の検討を実施することを基本としますが、毎年度実施する個別事業の評価・検証を踏まえ、必要に応じてネットワーク全体の評価を適宜実施するとともに、バス路線の見直し等を実施します。
- ・個別事業については、毎年度、各事業主体と事務局が共同して、実施状況や目標値の達成状況を評価・検証するとともに、目標値を達成できていない場合の要因の分析を踏まえ、改善策を検討した上で、御嵩町地域公共交通会議へ諮ります。
- ・目標年度の2025年度を最終年度として、上位関連計画における将来都市像等の見直し（中間評価）を踏まえ、御嵩町地域公共交通会議にて地域公共交通網形成計画の見直しを実施します。

図 8-1 公共交通ネットワークの評価・検証の流れ



(2)公共交通ネットワークの評価・検証

ネットワーク全体の評価・検証は、計画期間の最終年度（2025年度）に計画の目標で設定した基本方針別の目標について、目標値の達成状況の評価・検証します。

表 8-1 計画の目標で設定した基本方針別の目標値

交通将来像	
「みたけファンのくらしと交流を支える交通のまち」	
基本方針	目標値
【基本方針Ⅰ】 御嵩町の将来都市構造を支える公共交通ネットワークの形成	【目標値】 <ul style="list-style-type: none"> ● 町内の公共交通の利用者数 ● 公共交通全体の満足度
【基本方針Ⅱ】 広域連携・交流を促進する新たな広域路線の導入に向けた取り組みの推進	【目標値】 <ul style="list-style-type: none"> ● 名鉄広見線の利用者数 ● 主要観光施設の観光入込客数
【基本方針Ⅲ】 わかりやすく・利用しやすい公共交通利用促進施策の展開	【目標値】 <ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通の認知度 ● 利用しやすさの満足度 ● 関係者が連携・協働した取り組みの件数

(3) 個別事業および路線単位での評価・検証

個別事業の評価・検証は、「計画の目標を達成するために行う事業・実施主体」で定めた各種公共交通の利用促進施策等に対応して実施するものであり、効果的かつ効率的な事業実施となるよう、毎年度、各事業の実施主体と事務局が共同し、進捗状況を踏まえた上で個別事業の継続・見直しを検討します。

また、個別事業の実施に伴う各路線への効果と影響についても把握し、安全性や利便性に配慮した運行を確保するため、必要に応じて計画年度中での路線見直しについて、適宜、検討・実施します。

表 8-2 路線単位での評価指標・目標値

【評価指標】 鉄道駅別・バス等路線別の利用者数			
路線名		目標値[2025]	現況値[2019]
公共交通軸（鉄道）	御嵩駅	1,240 人	1,232 人/日
	御嵩口駅	270 人	261 人/日
	顔戸駅	190 人	181 人/日
	明智駅	940 人	937 人/日
広域交流路線	YAO バス	200 人/日	197 人/日
地域交流路線	ふれあいバス みたけ・なか線	30 人/日	26 人/日
	ふれあいバス 工業団地・南山台線	40 人/日	36 人/日
	さつきバス 兼山線	20 人/日	17 人/日
生活交流路線	ふれあい予約バス ふしみ線	30 人/日	21 人/日
	ふれあい予約バス かみのごう線	20 人/日	16 人/日
個別輸送	一般タクシー	50 人/日	49 人/日

* 1 : YAO バス・さつきバス兼山線は交通事業者データより、利用者数を日換算

* 2 : ふれあいバス・ふれあい予約バスは御嵩町データより、利用者数を日換算

* 3 : タクシーは交通事業者データより、利用者数を日換算

* 4 : 目標値は公共交通全体の利用者数をトレンドで予測